

705-6852F0-02

Godox

TT685^{II} (F)

迅速TTLエレクトロニックフラッシュ

合格证
QC PASS



説明のパンフレット

深圳市神牛摄影器材有限公司

住所：深圳市宝安区福海街道塘尾社区福川工业区工場2棟
電話番号：+86-755-29609320 (8062) フォックス：+86-755-25723423
メールアドレス：godox@godox.com

godox.com

Made in China



本製品を使用する前に：

安全に本製品を使用することを確保するため、予め本取扱説明書をよく読んでください。必要な時にすぐに取り出せるよう大切に保管してください。

神牛製品をご購入いただきありがとうございます。

本カメラフラッシュはFUJIFILMシリーズカメラに適用し、TTL自動発光に対応できます。TTLフラッシュを使うことによって、より簡単な撮影体験を獲得でき、光線変化の複雑な条件で自動に正しいフラッシュ露出を獲得でき、撮影が手軽になります。本製品の特徴は主に下記の通りです。

●約GN60(ISO 100,@200mm)、81段階の調光(1/1~1/256)

●FUJIFILM TTLに対応可能

TTL自動フラッシュをサポートし、ワイヤレスマルチランプフラッシュシステムのマスターまたはスレーブユニットとして、撮影が簡単に迅速に撮影することができます。

●アレイ液晶パネル

直感的に表示して、操作がもっと簡単になります。

●内蔵2.4Gワイヤレス伝送

送受信一体、超遠距離、創造性無限。

●整った機能、無限な利用可能性

手動発光とストロボ発光モード、ハイスピードシンクロ/第二幕シャッターシンクロ/フラッシュ露出補正などのTTL機能をサポートします。

●光学的研究、出力安定

高速フラッシュは、出力輝度と色温度が連続的に一致するたびに、光線が均一に分布しています。

●ファームウェアのアップグレード、互換性は心配ありません

元の工場のカメラのペースに従って、ソフトウェアを再アップグレードすることができます。

01	はじめに
01	警告
03	部品名
	本体
	コントロールパネル
	LCD液晶ディスプレイ
	3つのモードで異なるLCD画面表示
	標準付属品
	オプション付属品
	電池の着脱
06	フラッシュの着脱
06	電力管理
07	フラッシュモード:TTL自動点滅モード
	フラッシュ露出補償
	高速同期
	第二シャッター同期
08	フラッシュモード-M:手動フラッシュ
09	フラッシュモード-Multi:ストロボフラッシュ
11	ワイヤレスフラッシュ撮影:ラジオ(2.4G)送信
	ワイヤレス設定
	通信チャンネル設定
	ワイヤレスID設定
	フリーチャンネル設定スキャン
	TTL:全自動ワイヤレスフラッシュ撮影
	M:手動ワイヤレスフラッシュ撮影
	Multi:手動ワイヤレスフラッシュ撮影
15	他の応用
	同期ジャックトリガー
	オートAFランプ
	パウンスフラッシュ
	ZOOM:フラッシュカバレッジを設定します
	電力低下の警告
17	C.Fn:カスタム機能を設定します
18	保護機能
19	製品パラメータ
19	故障排除ガイド
20	ファームウェアアップグレード
20	互換カメラリスト
21	メンテナンスカタログ

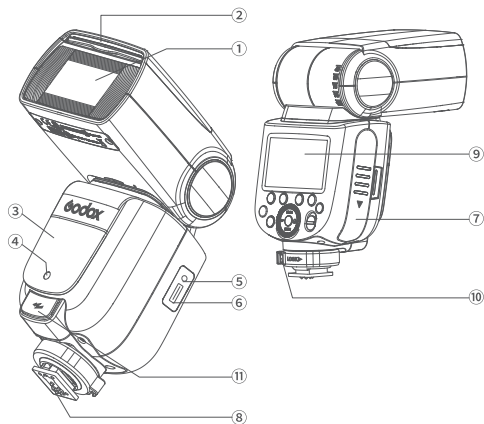
警告

- ▲ 乾燥したままにしてください。
- ▲ 製品に障害が発生した場合、当社または許可されたメンテナンス担当者が修理をチェックする必要があります。
- ▲ 子供を本製品に接触させないでください。
- ▲ 取り外し、衝突は禁止されています。圧縮したり火に投入したりして、深刻な膨張が発生した場合は、引き続き使用しないでください。50度を超える高温環境に置かないでください。
- ▲ フラッシュランプの頭を人の目(特に赤ちゃんの目)に向けてフラッシュしないでください。そうでなければ、短時間で視力障害を引き起こす可能性があります。
- ▲ フラッシュは、化学品、可燃性ガス、または他の特殊な物質の近くで使用しないでください。これらの物質は、特別な場合には、フラッシュの瞬間的な強い光に敏感であり、火災または電磁干渉を引き起こす可能性があります。これらの場合、警告表示に注意してください。
- ▲ 本製品は防水できませんので、雨の日や湿った環境では防水にご注意ください。
- ▲ 何か故障が発生した場合は、すぐにフラッシュ電源をオフにしてください。

本取扱説明書で使用されている約束

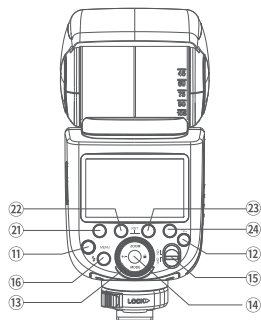
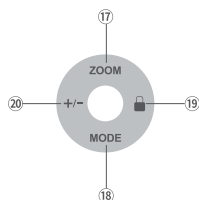
- この使用説明書における操作手順は、カメラおよびフラッシュの電源スイッチがオンされたものとします。
- 参照ページ番号は(**ページ)で表されます。
- この使用説明書では、以下の警告記号が使用されます:
 - ▲ この「気を付けて」記号は、撮影問題が発生しないように警告することを表します。
 - この「注意」記号は補足情報を提供します。

部品名



●本体

- | | |
|---------------|------------------|
| 01.フラッシュヘッド | 07.バッテリーコンパートメント |
| 02.内蔵広角乱視ボード | 06.Type-C USBポート |
| 03.ワイヤレスセンサー | 08.ホットシュー |
| 04.補助フォーカスライト | 09.液晶画面 |
| 05.同期ジャック | 10.固定ホットシューボタン |
| | 11.外部充電ポート |

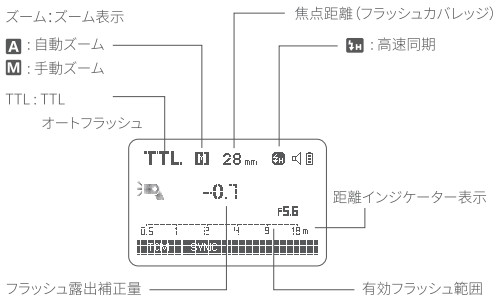


●コントロールパネル

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| 11.<MENU>フラッシュメニューボタン | 18.<MODE>フラッシュモードの選択 |
| 12.<Z>ワイヤレスボタン | 19.<ロック>ロック設定 |
| 13.調整ノブ | 20.<+/->電力調整 |
| 14.設定ボタン | 21.機能ボタン1 |
| 15.ON / OFF電源スイッチ | 22.機能ボタン2 |
| 16.<Z>トリアルフラッシュボタン | 23.機能ボタン3 |
| 17.<ZOOM>焦点距離設定 | 24.機能ボタン4 |

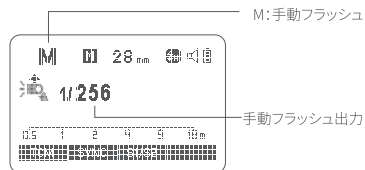
●液晶ディスプレイ

(1) TTLオートフラッシュ

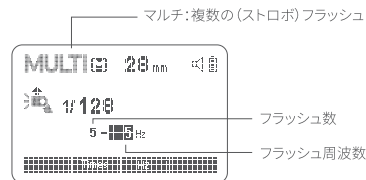


- ディスプレイには、現在のアプリケーションの設定のみが表示されます。
- 機能ボタン1~機能ボタン4の上に表示される機能(<SYNC>および<M/A/B/C>)は、設定された状態に応じて変化します。
- ボタンやダイヤルが操作されると、液晶ディスプレイが点灯します。機能ボタン1の上にはTCMが表示されると、機能ボタン1を短く押すことにより、TTLモードとMモードとの遷移を実現することができます。

(2) Mマニュアルフラッシュ

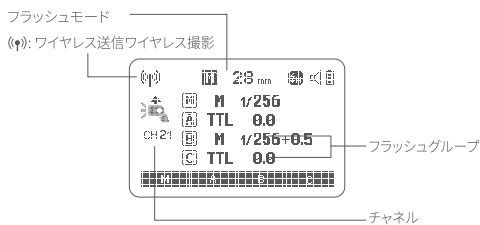


(3) マルチストロボフラッシュ

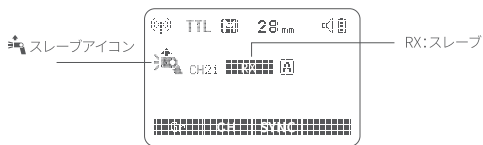


(4) ワイヤレス送信撮影

●メインコントロールユニット

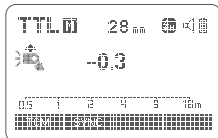


●スレープユニット

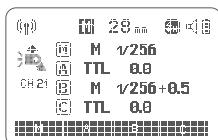


●3つのモードで異なるLCD画面表示

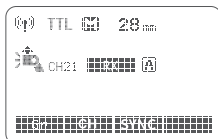
●セットアップモード



●2.4Gワイヤレス伝送: マスターとして

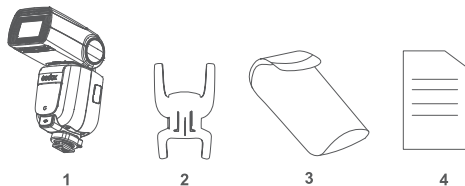


●2.4Gワイヤレス伝送: 従属として



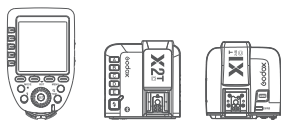
●標準付属品

1.フラッシュ 2.ミニチュアベース 3.保護バッグ 4.取扱説明書

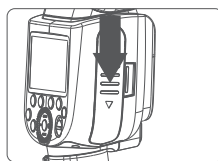


●オプション付属品

XproC、X2T-C、X1C TTLフラッシュトリガーなど、当社の写真用付属品と併用して、最高の撮影効果と体験を得ることができます。

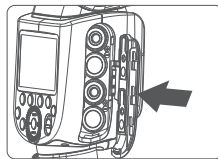


●電池の着脱



1 電池を分解します。

- 電池タンクの指示方向に沿って、あなたの両手で電池タンクを押すと、電池タンクが開け、電池を取り出すことができます。

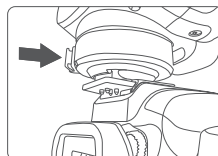


2 電池を取り付けます。

- 電池タンクを開けた後、電池の正負極を見分け、4本の電池を1つずつ電池タンクに入れ、最後に電池タンクを覆い、上に突き上げればいいです。

ヒント:別に神牛外接フラッシュ電源ボックスPB 960を購入し、TT685IFを組み合わせて使用することで、フラッシュ回数を大幅に増加させ、回生時間を短縮し、航続能力を向上させることができます。

フラッシュの着脱



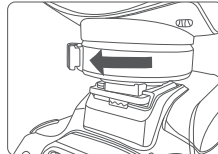
1 フラッシュを取り付けます。

- フラッシュ回転ボタンを回して左に行けば、カメラのホットシューを全部挿入することができます。



2 フラッシュをしっかり締めます。

- フラッシュ回転ボタンを右に回すと、ホットシューをロックすることができます。



3 フラッシュを取り外します。

- 回転ボタンのボタンを押して左に回転すると、ホットシューのロックが解除されます。

電源管理

*ON/OFF電源スイッチは、製品のオンおよびオフを制御し、長時間使用しない場合は電源をオフにしてください。本製品は電源自動オフ機能が設計されています。マスターユニットとして長時間(約90秒)誰も操作していない場合には、フラッシュが自動的にオフされ、シャッターボタンまたは筐体の任意のキーを半押しして起動され、スレープユニットとして60分(または30分)に何の操作もない場合には、フラッシュランプがスレープ状態になり、本体の任意のキーを押して起動することができます。

- C.Fn** 本体から離れて使用時には、カスタム機能により「自動電源オフ」を無効にすることをお勧めします。
- C.Fn** 「スレープ自動電源オフタイム」は、出荷時にデフォルトで60分に設定されており、30分をカスタマイズして選択することもできます。

フラッシュモード：TTL自動点滅モード

このフラッシュにはTTL自動点滅、M手動フラッシュ、Multiストロボフラッシュの3つのモードがあります。TTLモードでは、カメラの測光システムは、本体から反射したフラッシュ照明を検出し、点滅出力量を自動的に調節し、本体と背景を均一に露出させます。露出補償、高速同期、第2カーテンシャッター同期の機能をサポートします。

*<MODE>モード選択ボタンを押すと、3つのフラッシュモードが液晶画面に順次表示されます。

TTLモード

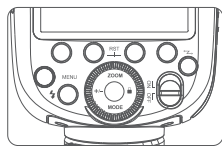
<MODE>モード選択ボタンを押すことにより、フラッシュを<TTL>に設定することにより、フラッシュをTTLモードにすることができます。

- カメラシャッターボタンを半押しして合焦すると、絞り値と有効範囲がディスプレイに表示されます。
- シャッター開放前の瞬間に1回リフラッシュを行い、フラッシュはカメラ情報を受信して主フラッシュを行います。

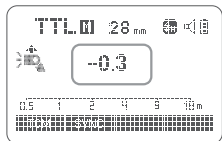
フラッシュ露出補償

このフラッシュは±3段の間で1/3速の増分でフラッシュ露光補償を調節することができます。環境のニーズによりTTLシステムを微調整する必要がある場合、この機能は非常に有用です。

フラッシュ露光補償を設定します：

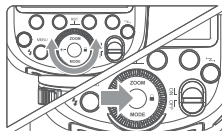


1 <+/-> ボタンを押して、フラッシュ露出補正量はハイライト表示されます。



2 フラッシュ露出補正量の設定

- 調整つまみを回し、露出補正量を設定します。
- 「0.3」は1/3段を示し、「0.7」は2/3段を示します。
- フラッシュ露出補正を取り消す必要がある場合、フラッシュ露出補正量を「+0」に設定します。



3 設定ボタンを押して、フラッシュ露出補正を確認します。

高速同期

高速同期 (FPフラッシュ) を使用すると、すべてのシャッタースピードでフラッシュを同期させることができます。高速シンクロフラッシュは、アイリスを使用して人物を優先的に塗りつぶしフラッシュする場合に特に便利です。

マシントップ高速同期の設定

フラッシュの設定を調整するには、カメラの[撮影]メニューの[フラッシュ設定]>[フラッシュ機能設定]オプションを使用します。詳しくは、カメラの取扱説明書を参照してください。



X-T2のフラッシュ機能設定メニュー

- SYNCオプションでFPを選択すると、高速同期機能がオンになります。

- 高速同期を使用しており、シャッタースピードが速いほど有効フラッシュ範囲が狭くなります。
- ストロボキラキラをセットできません。
- 連続高速同時発光30回後にフラッシュ熱保護機能が有効になる場合があります。

第二シャッター同期

スローシャッターを使用すると、被写体の後ろにレイトラックを作成できます。シャッターを閉じる直前の瞬間にフラッシュが光ります。

フラッシュの設定を調整するには、カメラの撮影メニューの[フラッシュ設定]>[フラッシュ機能設定]オプションを使用します。詳しくは、カメラの取扱説明書を参照してください。

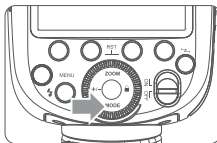


X-T2のフラッシュ機能設定メニュー

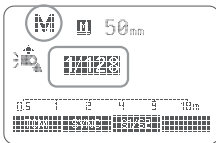
- SYNCオプションでREARを選択すると、カーテン同期機能がオンになります。

フラッシュモード：M手動フラッシュ

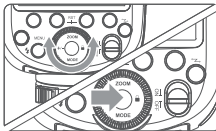
フラッシュ出力は、1/256電力から1/1全電力までの1/10速分で設定できます。正確なフラッシュ露光を得るためには、手持ちのフラッシュ測光テーブルを用いて必要なフラッシュ出力を決定してください。



1 <MODE>モード選択ボタンを押して、パネルに<M>を表示させます。



2 <+/->ボタンを押して選択し、調整つまみを回して発光出力を設定します。



3 設定ボタンを押して、発光露出補正を確認します。

S1光制御ユニット設定

M手動点滅モードでは、S 1機能を用いることができ、フラッシュはサブライトとして使用可能であり、多様な照明効果を創出し、手動点滅環境に適しています。これは主フラッシュの1回目のフラッシュと同期して点滅をトリガし、効果はワイヤレスフラッシュ器の使用と一致します。

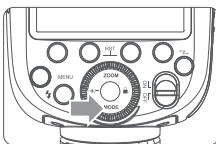
S2光制御ユニット設定

M手動点滅モードではS 2機能を用いることができ、フラッシュはサブライトとして使用可能であり、TTL点滅環境に適しています。プリフラッシュ防止機能を持ち、1次プリフラッシュ機能付きカメラを用いて光制御で同期撮影を実現することができます。これは、主フラッシュの2回目のフラッシュと同期してフラッシュ、すなわち2次光制御フラッシュをトリガします。

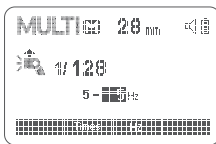
● S1/S2光制御フラッシュモードは、Mモードでのみサポートされます。

フラッシュモード: Multiストロボフラッシュ

フラッシュフラッシュを使って、一連の速いフラッシュを発射することができます。1枚の写真上で移動物体の複数の画像を撮影することができます。フラッシュ周波数(毎秒のフラッシュ回数、Hzで表す)、フラッシュ回数、フラッシュ出力を設定することができます。

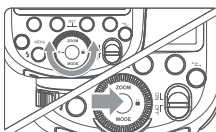


1 <MODE>フラッシュモード選択ボタンを押すと、画面に<MULTI>が表示されます。



2 フラッシュ周波数とフラッシュ回数を設定します。

- 機能ボタン2<Times>を押してフラッシュ回数を選択し、調節つまみを回転させて数字を設定します。
- 機能ボタン3<Hz>を押してフラッシュ周波数を選択し、調節つまみを回転させて数字を設定します。



3 調整つまみを回転させてフラッシュ出力を設定します。設定ボタンを押して確認すると、すべての設定が表示されます。

シャッター速度を計算します

ストロボフラッシュ中、シャッターはフラッシュ停止まで開状態を維持すべきです。次式を用いてシャッター速度を計算し、カメラで設定します。

フラッシュ回数/フラッシュ周波数=シャッター速度

例えば、フラッシュ回数が10、フラッシュ周波数が5 Hz、シャッター速度が少なくとも2秒です。

▲ フラッシュランプヘッドが過熱して破損することを防ぐために、連続10回以上のストロボフラッシュ連写は行わないようにしてください。フラッシュ10回後、フラッシュを少なくとも15分間冷やしてください。連続10回以上のストロボフラッシュ連写を実行しようとする、フラッシュランプヘッドの過熱を防止するために、フラッシュが自動的に停止する可能性があります。もしこのような状況が発生したら、フラッシュを少なくとも15分間冷却させてください。

- テカリの強い被写体は、暗い背景の前にストロボフラッシュを用いた方が有効です。
- 三脚とリモコンスイッチの使用をお勧めします。
- フラッシュ出力が1/1と1/2の場合はストロボフラッシュを設定できません。
- ストロボフラッシュの場合には「bulb」を用いることも可能です。
- フラッシュ回数が-である場合、フラッシュは、シャッターまたはバッテリーが枯渇するまで連続的にフラッシュされます。以下の表に示すように、点滅回数が制限されます。

最大ストロボ回数

Hz	1	2	3	4	5	6-7	8-9
フラッシュ出力 1/4	8	6	4	3	3	2	2
1/8	14	14	12	10	8	6	5
1/16	30	30	30	20	20	20	10
1/32	60	60	60	50	50	40	30
1/64	90	90	90	80	80	70	60
1/128	90	90	90	90	90	90	80
1/256	90	90	90	90	90	90	80

Hz	10	20-50	60-100
フラッシュ出力 1/4	2	2	2
1/8	4	4	4
1/16	8	8	8
1/32	20	16	12
1/64	50	30	20
1/128	70	40	40
1/256	70	40	40

ワイヤレスフラッシュ撮影:ラジオ(2.4G)送信

5つの子機群の作成をサポートし、TTLオートフラッシュを実現するラジオクイックアイティブシステム。TTLオートフラッシュを使用すると、さまざまな照明効果を簡単に得ることができます。

●マスターユニットがグループごとに個別に設定したTTLオートフラッシュを使用すると、マニュアルフラッシュとストロボフラッシュの設定がスレーブユニットに自動的に転送されます。これにより、撮影時に子機を操作する必要がなくなる。これは、マスター・ユニット上の各スレーブ・グループを個別に設定するだけで完了します。

●マスターユニットにセットすると、TTL/M/Multi/OFFの4つのフラッシュモードで動作します。

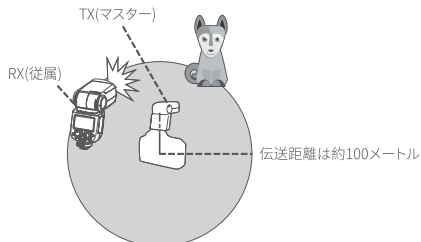
●カメラに搭載されたTT685IIFをマスターユニット、無線制御されるTT685IIF

をスレーブユニットと呼びます。

●子機に設定したTT685IIFをフラッシュ発信器X1T-C(別売)でワイヤレス制御することもできます。主制御ユニットの設定機能の詳細については、送信機の取扱説明書を参照してください。

位置および動作範囲(ワイヤレスフラッシュ撮影の例)

●スレーブユニットを用いた自動フラッシュ撮影



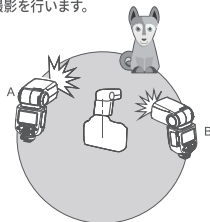
- 付属のマイクロセントを用いてスレーブユニットを位置決めします。
- 撮影を始める前にテストフラッシュと試写を行ってください。
- スレーブユニットの位置、周囲環境、天気状況などの影響を受け、伝送距離が短い可能性があります。

ワイヤレス多重フラッシュ撮影

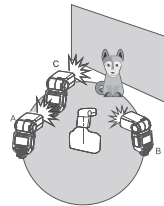
ワイヤレス多重フラッシュ撮影

スレーブユニットを2つまたは3つのグループに分割し、フラッシュ光比(倍率)を変化させながらE-TTL自動フラッシュ撮影を行うことができます。また、各フラッシュグループ(最大4グループ)に設定して異なるフラッシュモードで撮影することができます。

●2つの係り受けグループで自動フラッシュ撮影を行います。



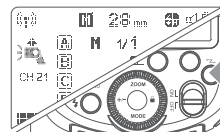
●3つの従属グループで自動フラッシュ撮影を行います。



1. ワイヤレス設定

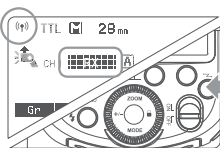
通常のフラッシュとワイヤレスフラッシュの間で切り替えることができます。通常のフラッシュについては、必ずワイヤレス設定を「オフ」に設定してください。

マスターユニット設定



<W>ワイヤレス設定ボタンを押下すると、<W>が画面に表示されます。

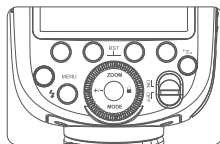
従属ユニット設定



<W>ワイヤレス設定ボタンを押下すると、<W>および<RX>が画面に表示されます。

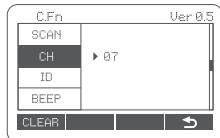
2. 通信チャンネルを設定します

撮影現場で1つ以上のワイヤレスフラッシュシステムであれば、通信チャンネルを変更することで信号干渉を防止することができます。保証マスターユニットとスレーブユニットは同じチャンネル番号に設定すればよいです。



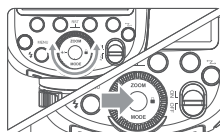
1

<MENU>×メニューキーを押してカスタムCH設定に入ります。



2

カスタマイズでは<CH>では、回転調節つまみが1から32までチャンネルを選択します。

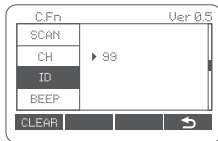


3

設定ボタンを押して確認します。

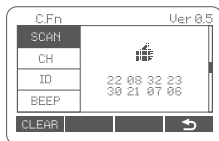
3. ワイヤレスID設定

信号干渉を回避するためには、ワイヤレス通信チャンネルの変更に加えて、ワイヤレスIDを変更することにより干渉を防止することができます。マスター部とスレーブ部とを同じチャンネルおよびワイヤレスIDに設定すればよいです。<MENU>×メニューキーを短く押してC.Fn IDに入り、01-99のうち任意一数字ワイヤレスIDを選択して開き、OFFワイヤレスIDを選択してオフします。



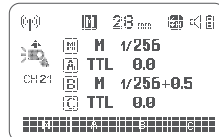
4. 空きチャンネル設定をスキャンします

他の人が同じチャンネルを使用して干渉されることを避けるために、カスタマイズメニューに入って(SCAN)のオプションを見つけるスキャンアイドルチャンネル機能を用いることができ、STARTに設定した場合には1%から100%のスクリーンが表示され、スキャン完了後に8組のチャンネル空きチャンネルが現れます。



5. TTL:全自動ワイヤレスフラッシュ撮影

スレーブユニットを用いた自動フラッシュ撮影



1 マスターユニットの設定。

- カメラに取付けられたTT685IIFをマスターユニットに設定します。
- M/A/B/CはいずれもそれぞれTTLを設定できます。



2 スレーブユニットの設定。

- ワイヤレスにコントロールされるTT685IIFをスレーブユニットに設定します。

3 伝送チャンネルのチェック。

- ワマスターユニットとスレーブユニットのチャンネルを同じに設定します。

4 カメラとフラッシュの配置。

- カメラとフラッシュを示された範囲内に配置します。

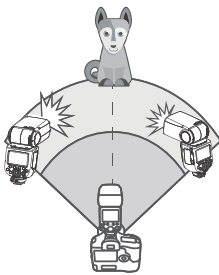
5 フラッシュは準備に完成しているか否かをチェックします。

- マスターフラッシュ準備済みインジケータは点灯しているか否かをチェックします。

6 操作のチェック。

- マスターフラッシュのテスト発光ボタン<F>を押します。
- スレーブユニットは発光します。スレーブユニットは発光しないと、操作範囲内にあるか否かをチェックします。

複数のスレーブユニットを用いた自動フラッシュ撮影



より大きなフラッシュ出力が必要である場合、または照明をより容易に行いたい場合には、スレーブユニットの数を増加させ、単一のフラッシュフラッシュとして使用することができます。

スレーブユニットを追加するには、「1つ」のスレーブユニットを用いた自動フラッシュ撮影と同様のステップを用いて、任意のフラッシュグループ(A/B/C/D/E)を設定することができます。

スレーブユニットの数が増加した場合やマスターフラッシュフラッシュがONに設定されている場合には、全てのフラッシュが同じフラッシュでフラッシュを出力し、総フラッシュ出力が標準露光に達することを保証する自動制御が行われます。

- スレーブユニットの自動オフ電源が有効である場合、マスターユニットのテストフラッシュボタンを押してスレーブユニットをオンにします。カメラの測光タイミングで動作している間、テストフラッシュはできませんのでご注意ください。
- スレーブユニットの自動電源オフが発効するまでの時間を変更することができます。
- オートフォーカス補助送信器は、スレーブユニットの電源戻しが完了したときに点滅しないように設定することができます。

全自動ワイヤレスフラッシュを使います

マスターユニットに設定されたフラッシュ露出補償や他の設定もスレーブユニットに自動的に設定されます。スレーブユニットを操作する必要はありません。ワイヤレスフラッシュ撮影は、通常のフラッシュ撮影と同様の方法で以下の設定で行うことができます。

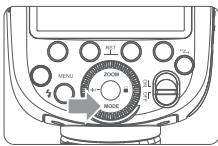
- フラッシュ露出補償(<F>)

マスターユニットについて

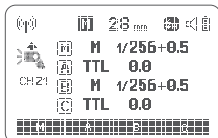
2つ以上のマスターユニットを使用することができます。マスターユニットを搭載したカメラを複数台用意することにより、同じ照明(スレーブユニット)を保持している間にカメラを交換して撮影することができます。

6. M: 手動ワイヤレスフラッシュ撮影

手動フラッシュを用いたワイヤレス(多重フラッシュ)撮影は、スレーブユニット(フラッシュグループ)ごとに異なるフラッシュ出力を設定して撮影することができます。マスター部にはすべてのパラメータを設定します。

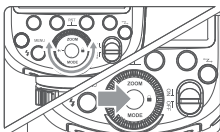


1 フラッシュモードを<M>とします。



2. フラッシュ出力を設定します。

機能ボタン1/2/3/4<M/A/B/C>を押下し、回転調整つまみはフラッシュ群にフラッシュ出力を設定し、設定ボタンを押して決定します。

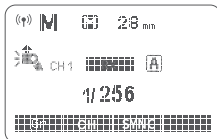


3 写真を撮ります

- 各グループは設定されたフラッシュ光でフラッシュを比較します。

<M>フラッシュモードを設定します

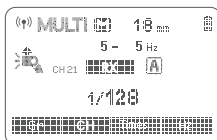
スレーブユニットを直接操作して手動フラッシュまたはストロボフラッシュを手動設定することができます。



2 スレーブユニットを設定します。

- <M>フラッシュモードを設定します。
- <MODE>モード選択ボタンを押下すると、<M>が画面に表示されます。
- 手動フラッシュ出力を設定します。

7. Multi: 手動ワイヤレスフラッシュ撮影



1 <MULTI>ストロボモードを設定します。

- <MODE>モード選択ボタンを押して画面に<MULTI>を表示させます。
- ストロボフラッシュ設定を設定します。



神牛2.4 Gワイヤレス漏れ原因と解決策

1. 外部環境2.4 G信号干渉(例えば、ワイヤレス基地局、2.4 Gwifiルーター、Bluetoothデバイスなど)。

→フラッシュのチャンネルCH設定(アドバンス+10)を調節して、干渉のないチャンネルを見つけて動作するか、または動作時に他の2.4 Gデバイスをオフにしてください。

2. フラッシュが回生されたか、または回生速度が連写速度についているかどうかを確認してください(フラッシュレディランプが点灯しています)、過熱保護や他の異常状態はありません。

→フラッシュのギアを下げてください。TTLモードであればMモードに変更してみてください。(TTLモードではプリフラッシュが1回必要)。

3. フラッシュ器とフラッシュの距離が近すぎる(距離<0.5 m)。

→フラッシュで「近距離ワイヤレスモード」をオンにしてください:
X1シリーズ:点滅ボタンを押して放さず、ランプが2回点滅するまで電源を入れます。Xproシリーズ:C.Fn-DISTを0-30 m設定します。

4. フラッシュ装置および受信側装置が低電力状態にあるか否か。

→電池を交換してください(フラッシュ電池は1.5 V使い捨てアルカリ電池をお勧めします)。

他の応用

同期ジャックトリガ

同期ジャックサイズは中2.5 mmであり、ここでは同期線やトリガプラグを挿入してフラッシュを同期フラッシュすることができます。

自動補助焦点灯

低輝度または低コントラストの撮影場合には、フラッシュ内蔵のオートフォーカス補助ランプがオンされ、オートフォーカスを容易にする。

合焦が困難な場合には、赤色補助焦点ランプが点灯し、合焦が正確になると、補助焦点灯が自動的に消灯します。

自動補助合焦機能をオフにしたい場合には、C.Fnに「AF」から「OFF」を設定します。

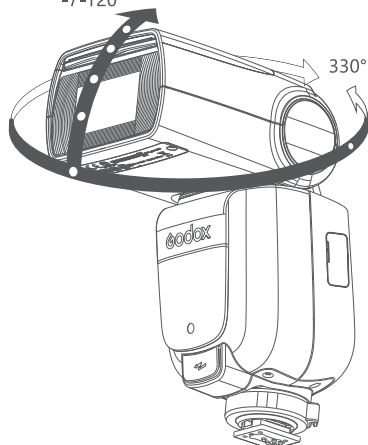
- ユーザーが使用する際に、補助フォーカスランプが点灯していないことが発見されると、カメラが正確な合焦状態になっているためです。

位置	有効範囲
中央	0.6~10 m/2.0~32.8フィート
エッジ	0.6~5 m/2.0~16.4フィート

反射フラッシュ

フラッシュランプヘッドを壁や天井に向けてることにより、被写体を照らす前の壁面でフラッシュ光が反射されます。これにより、被写体の背後の陰影を軽減し、より自然な撮影効果を得ることができます。これを反射フラッシュと呼びます。フラッシュランプヘッドを回転させて反射方向を設定します。

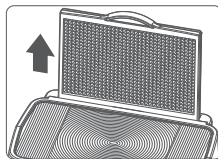
-7~120°



- 壁や天井が遠すぎると、反射フラッシュが弱すぎて露出不足になる可能性があります。

- 壁や天井は平坦で白く、効率的な反射に役立つはずですが、反射面が白色でなければ、写真に色合いが現れます。

目ライトを作ります



目ライトの作成にはアイパネルを用いて、被写体の目に目ライトを作成して顔の表情をより生き生きとさせることができます。

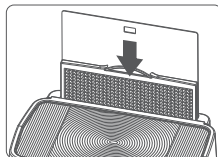
1. フラッシュランプヘッドを90°上方に回転させます。

2. 広角散板を引き出しながらアイパネルをポップアップします。

3. 広角散板を押し込みます。

- 広角散板のみを押し込みます。

- 反射フラッシュ中と同様の手順で行います。

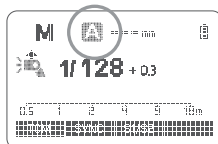


注意:

- フラッシュランプヘッドを前に指して後ろに90度回転させてください。フラッシュランプのヘッドを左右に回転させると目ライトは発生しません。
- 最も良いアイコンタクト効果を得るためには、被写体はカメラ1.5 m/4.9フィート以内であってはなりません。

ZOOM:フラッシュカバレッジを設定します

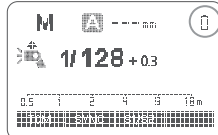
このフラッシュには、オートズームとマニュアルズームの2つのズーム方法があります。フラッシュカバレッジは、20~200mmまたは14~133mmのレンズ焦点距離に合わせて設定することができます。オートズームでは、カメラのズームレンズの変化に応じて焦点距離が変化し、最適な閃光効果が得られます。



手動ズームの場合は、<ZOOM>ズームボタンを押します。

- 調節つまみを回してフラッシュカバー範囲を変更します。
- 表示<A>状態では、フラッシュカバー範囲を自動的に設定します。

●フラッシュカバー範囲を手動で設定し、そのカバーレンズの焦点距離を確保すると、写真に影のエッジは現れません。



電池量が低い場合は、電池記号<電池>が点滅しますので、電池を交換してください。

C.Fn: カスタム機能を設定します

以下のグラフィティティブアプリケーション欄と照合して、カスタム機能を用いて設定を完了してください。

カスタム関数記号	機能	シンボルを設定します	設定と手順
m/ft	距離ランプ表示	m	メートル
		ft	フィート
AF	オートフォーカス補助ライトフラッシュ	ON	起動
		OFF	閉鎖
STBY	自動スリープ設定スリーブユニット自動	ON	起動
		OFF	閉鎖
RX STBY	電源オフタイマー	60min	60分
		30min	30分
SCAN	無料チャンネルスキャン	OFF	閉鎖
		START	無料チャンネルを検索
CH	チャンネル設定	01~32	32チャンネル選択
ID	ワイヤレスID	OFF	閉鎖
		01-99	01~99の任意の番号を選択して開く
BEEP	ブザー	ON	起動
		OFF	閉鎖
LIGHT	バックライト点灯時間	12sec	12秒後に自動的にオフ
		OFF	消火し続ける

LCD	LCDコントラスト	-3~+3	7レベル
ZOOM	ZOOM表示システム	APS	APSシステム
		135	135システム
TX DIST	トリガー距離	1-100m 0-30m	1-100m点滅 0-30m点滅

1. MENUボタンを押すとC.Fnメニューが表示されます。右上の「Ver x.x」はソフトウェアバージョン番号を表します。
2. カスタム機能記号を選択します。回転調節つまみはカスタム機能記号を設定します。
3. 設定を変更します。
 - 設定ボタンを押すと、カスタム機能番号が点滅します。
 - 回転調節つまみは所望の番号を設定し、設定ボタンを押して決定します。
 - カスタマイズ機能を設定して<MENU>ボタンを押すと、カメラが撮影できます。
4. C.Fn状態において、「OK」が出現するまで「Clear」ボタンを2秒長く押すことは、C.Fnのパラメータをリセットすることを示します。

保護機能

1. 熱保護

- フラッシュランプヘッドが過熱して破損することを防ぐために、1/1パワーで40回を超える高速連続フラッシュは行わないようにしてください。40回の連続フラッシュ後、フラッシュを少なくとも10分間冷却しなければなりません。
- 40回以上の連続フラッシュを行った後すぐに複数回のフラッシュを継続すると、内部の過熱防止機能が活性化する可能性があり、このような現象が発生した場合、フラッシュを約10分間冷却させると、フラッシュが正常に戻ります。
- ホットガードが起動されると、ディスプレイ上の記号が表示されます。

熱保護機能を活性化する連続フラッシュ回数:

サイズ ギア	ZOOM (mm)									
	20	24	28	35	50	70	80	105	135	200
1/1	40	50	50	60	60	70	70	80	80	80
1/2	50	60	60	75	75	100	100	100	100	100
1/4	100	100	100	100	120	150	150	150	150	150
1/8	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200
1/16	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300
1/32	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500
1/64	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000
1/128	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000
1/256	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000

高速同期モードにおいて、熱保護機能を活性化する連続フラッシュ回数:

サイズ ギア	ZOOM (mm)
	20~200
1/1	30
1/2	30
1/4	34
1/8	40
1/16	50
1/32	50
1/64	60
1/128	60

2. その他の保護

●設備の安全な作業を保証するために、システムは常に予防保護を行い、以下の提示記号を参考にします。

LCD表示	警告内容
E1	フラッシュ回生システムに問題が発生して、フラッシュを戻すことができません。再電源を入れてください。解決できない場合は修理してください。
E2	設備内の温度が高すぎますので、フラッシュを10分止めてください。
E3	フラッシュランプの両端の電圧が高すぎますので、修理してください。
E9	ファームウェアのアップグレードが間違っていますので、正しいファームウェアのアップグレードを行ってください。

製品パラメータ

モデル	TT6851IF
対応カメラ	FUJIFILMカメラ(TTL自動発光)
ガイドナンバー (1/1ギア、焦点距離200mm)	GN60 (ISO100)
フラッシュカバレッジ	20-200 mm (135システム) または 14-133 mm (APS) ・オートズーム (レンズの焦点距離や画像サイズに合わせてフラッシュのカバー範囲を自動設定) ・手動ズーム、フラッシュヘッド回転/傾斜、水平0~330° 縦-7~120 (バウンスフラッシュ)
フラッシュの持続時間。	1/300秒から1/2000秒
露出制御	
露出制御システム	TTL自動発光、手動発光
フラッシュ露出補正 (FEC)	手動、フラッシュブラケット露出: ±3段で1/3段刻みに調整します (手動フラッシュ露出補正とフラッシュブラケット露出と組み合わせることで使えます)
同期方法	高速同期 (最大1/8000秒)、前幕同期、後幕同期
ストロボフラッシュ	利用可能 (回数: 90回; 100Hz)
ワイヤレスフラッシュ (ラジオ 2.4G送信)	
ワイヤレス機能	マスターユニット、スレーブユニット、オフ
マスターユニットグループ	M, A, B, C
制御可能なスレーブユニットグループ	A, B, C, D, E (グループEはXシリーズフラッシュトリガーで制御)
送信範囲 (概算)	100メートル
チャネル	32グループ: 01~32
ID	01~99
モデリングフラッシュ	カメラの被写界深度レビューボタンを使用してフラッシュ
オートフォーカス補助ライト	
有効範囲 (約)	センター: 0.6-10メートル/エッジ: 0.6-5メートル
電源	
単三電池	Ni-MH電池 (推奨) または LR6型アルカリ乾電池 * 4
コールドバック時間	0.1-2.6秒
フルパワーでのフラッシュの数	約290回 (ニッケル水素二次電池)
省エネ	無人操作で約90秒後にフラッシュの電源が自動オフ
↓	スレーブユニットとして設定すると、60分間スリープ状態
作業温度	-10°C-50°C
同期トリガーモード	ホットシュー、2.5mm同期ライン
サイズ	
音量	64 * 76 * 190 mm
正味重量 (バッテリーなし)	405g
重量 (バッテリーを含む)	489g

故障排除ガイド

問題が発生した場合は、この障害排除ガイドを参照してください。

フラッシュが点滅しません。

- フラッシュはカメラにしっかりと取り付けられていません。
→フラッシュの固定台をカメラにしっかりと取り付ける。
- フラッシュとカメラの電子接点が汚れています。
→接点を掃除してください。

電源が自動的にオフになります。

- ランプがマスターユニットである場合には、90秒の無操作後、自動電源オフ機能が有効となります。
→シャッターボタンまたは本体の任意のボタンを半押しして起動します。
- スリープとして60分 (または30分選択) の操作もない場合、フラッシュランプはスリープ状態に入ります。
→本体の任意のボタンで起動することができます。

オートズームは作動しません。

- フラッシュはカメラにしっかりと取り付けられていません。
→フラッシュの固定台をカメラにしっかりと取り付けます。

フラッシュ露出が不足したり過剰になったりします。

- 高速同期を使用します。
→高速同期を用いると、有効な点滅範囲が小さくなります。被写体が表示の有効フラッシュ範囲内にあることを確保します。
- フラッシュは手動露光モードを使います。
→TTLモードに変更するか、フラッシュ出力電力設定を変更します。

写真に暗い角が出ていたり、被写体が部分的にしか照らされていません。

- カメラレンズの焦点距離がフラッシュの範囲を超えています。
→フラッシュの現在のオーバーレイ焦点距離を確認してください。本製品のランプヘッドのズーム範囲は、14-133mm (APSシステム) と 20-200mm (135システム) です。

ファームウェアのアップグレード

- 本製品のUSBインターフェースはType-Cインターフェースですので、Type-C USBラインを使用してください。
- 製品アップグレードファームウェアにはGodox G3プログラムソフトウェアサポートが必要。ファームウェアをアップグレードする前に「Godox G 3ファームウェアアップグレードソフトウェア」をダウンロードして対応するファームウェアファイルを選択してください。
- 製品がファームウェアのアップグレードを行っていますので、説明書は最新の電子版を基準にしてください。

互換カメラリスト

フラッシュコントロールは、フジカメラによって以下のカテゴリに分類されています:

A類	X-PR02, X-T20, X-T2, X-T1, GFX50S, GFX50R > X-T30, X-T4, X-T3
B類	X-Pro1, X-T10, X-E1, X-A3
C類	X100F, X100T

カメラの互換性とサポート機能の比較表:

トップフラッシュ						2.4Gマスタースレーブフラッシュ								
カメラ	TTLフラッシュコントロール			Mフラッシュコントロール			重複	TTLフラッシュコントロール			Mフラッシュコントロール			重複
	標準	REAR	HSS(FP)	標準	REAR	HSS(FP)		標準	REAR	HSS(FP)	標準	REAR	HSS(FP)	
A類	√	√	√	√	√	√	√	√	√	√	√	√	√	√
B類	√	--	--	√	--	--	√	√	--	--	√	--	--	√
C類	√	√	√	√	√	√	√	√	--	√	--	√	√	√
	AF補助焦点灯													
A類	V													
B類	--													
C類	--													

注:1.X100Tはリアカーテン(REAR)機能なし、

2.AF補助フォーカスランプはシャッターが低速 (<200) のときに点灯します。

●本表には、現在テスト済みのカメラモデルのみが記載されており、フジシリーズのすべてのカメラを対象としたものではありません。他のカメラモデルは、ユーザーが自分でテストすることができます。

●当社は、このフォームの内容を将来修正する権利を留保します。

メンテナンス

- フラッシュは作動中に異常が発見された場合は、すぐに電源を切って原因を究明しなければなりません。
- ライト本体は振動を避けて、普段は表面のほこり除去に気をつけなければなりません。
- ライト本体の少し発熱は正常な現象であり、特に必要がない時、連続的にフラッシュを引いてはいけません。
- フラッシュのすべての修理はすべて当工場指定元工場部品の修理部が担当します。
- 1年間保証、消耗品、例えばランプなど、1年間保証範囲ではありません。
- このフラッシュを無断で点検した場合、フラッシュの1年保証期間をキャンセルし、修理には関連費用がかかります。
- 本品が故障したり、水に濡れたりした場合は、専門家が修理した後も継続して使用することができます。
- 技術的な変更があれば、予告なくお知らせします。

製品の修理保証

ご使用者様、本修理保証カードは修理保証の申請用の重要な証明書でございます。販売店にご協力いただき、ご記入とご保管ください。ありがとうございます。

製品情報	型名	製品のバーコード
ご使用者情報	名前	電話番号
	連絡先	
販売店情報	名称	
	電話番号	
	連絡先	
	販売日	
備考欄		

本表は販売店より捺印が必要。

適用な製品

本書類は『製品修理保証情報』(後記の説明をご覧ください。)に関する製品シリーズに適用して、そのほかの本範囲に属していない製品あるいは部品(セール品、贈り物、ほかの出荷後の添付した部品等)はこの修理保証承諾に属していません。

修理保証期間

製品及び関連部品の修理保証期間は『製品修理保証情報』で実施します。修理保証期間は製品を初めて購入するときから数えて、購入日は購入するときに修理保証カードで記入された日数を基準とします。

修理保証サービスの獲得方法

修理保証サービスを要求したら、直接に製品の販売店または授權されたサービス機構と連絡できます。神牛のアフターサービスに電話をかけることもできます。我々のサービス員はサービスを手配します。修理保証を申請するときは、証明書として有効な修理保証カードを提供して修理保証が得ることができます。有効な修理保証カードを提供できないなら、我々は製品または部品が修理保証範囲に属することを確認したうえで、修理保証サービスも提供できませんが、それはわれわれの義務となりません。

修理保証に適用しない場合

もし製品は以下の状況があるなら、本書類で記入された保証とサービスに適用しません。①製品または部品は相応な修理保証期間を超えること;②正しくなく使用、メンテナンス、保管によって故障や損傷を起こすこと。例えば:不適当に運搬;製品の合理的な予期の用途で使用しないこと;不適当に外部設備を押したり抜いたりすること;落ちることや押しつぶすこと;不適当な温度、溶剤、PH、湿っぽい環境の中に置くこと;③神牛が授權されていない機構または整備員より取り付けたり、修理したり、変更したり、添付したりたり分解したりすること;起こした故障や損傷;④製品または部品のももとの標識マークが修正し変更されたら、削除されたらすること;⑤修理保証カードがないこと;⑥非合法な授権、標準街、公開されていないで発行するソフトウェアなどを使用して起こした故障や損傷;⑦不可抗力や事故で起こした故障や損傷;⑧ほかの製品自体で起こした故障や損傷ではないこと。上述の状況であれば、関連の責任者と解決策を求めてください。我々はそれに対していかなる責任を持ちません。修理保証期間外や修理保証範囲外での部品、付属品、ソフトウェアなどで使用しなくなることについて、修理保証範囲内の故障ではありません。使用中、製品の正常な脱色、摩耗と消耗は修理保証範囲内の故障ではありません。

製品の修理保証とサービスサポートとの情報

製品の修理保証期間とサービスタイプとは『製品修理保証情報』によって実施します。

製品類別	オプションの名称	修理保証期間	修理保証サービスの類型
部品	電気回路基盤	12	顧客より修理出し
	電池	3	顧客より修理出し
	充電器、電源線、同時線などの帯電性能の部品	12	顧客より修理出し
その他	フラッシュチューブ、造形の電球、ケース、保護カバー、ロック装置、包装等	なし	修理保証なし